

第 4 回委員会における検討内容と意見等の整理

第 4 回委員会における検討内容の整理

○災害に強いまちづくりへの寄与について

- ・事務局から、住之江工場の更新にあたって、以下の事項を必要な機能として確保するよう検討するとの提案があり、提案どおり承認することとした。
 - ①建築構造物等の耐震化については、「官庁施設の総合耐震計画基準」等の諸基準を踏まえ、必要な耐震安全性を確保するよう努めること。
 - ②住之江工場周辺の地域は、大和川が氾濫した場合や南海トラフ巨大地震が発生した場合に、1 から 2 m の浸水が想定されている地域であるため、浸水による被害を最小限にとどめ、浸水被害発生後の早期稼働再開ができるよう努めること。
 - ③災害発生後における施設の自立起動・運転ができる非常用発電機を設置し、早期稼働再開に努めること。
 - ④災害発生時にライフライン等が復旧するまでの間の運転が可能となるよう、必要な薬剤の確保や非常時の用水確保に努めること。
- ・また、非常時における自主的な地域防災活動へ積極的に参加することにより、災害に強いまちづくりに寄与することとし、津波避難ビルへの活用などを検討することとした。
- ・「住之江工場更新事業では、DBO方式を採用することが計画されていることもあり、従前の大阪市単独から 3 市の共同事業である環境施設組合に運営が変更されたことを踏まえて、災害に強いまちづくりの事業を検討して欲しい」との意見があった。

○住之江工場の見学者対応設備計画について

- ・事務局から、見学者対応設備計画について、以下のような提案があり、提案どおり承認することとした。
 - ①焼却炉等の設備を直接見ることができる展示を行う。
 - ②ごみ処理の歴史をリアルに感じることができる展示を行う。
 - ③ごみ処理や発生エネルギーに関する情報の「見える化」を積極的に行う。
 - ④「行動に繋がる」、「生活に活かせる」環境教育の場を提供する。
 - ⑤市民が安全かつ気軽に来場できる開放的な空間を確保し、市民に開かれた施設を目指す。
- ・「ごみ処理の大切さを正しく理解していただけるような設備にする必要がある」、「大阪市がごみ処理に取り組んできた歴史をアピールできるような設備を考えて欲しい」、「映像説明装置などは、初期費用だけではなく、設備更新に必要な費用も考慮して検討して欲しい」との意見があった。

第4回委員会における主な意見等

(1) 第3回委員会における検討内容と意見の整理 【報告事項】

・特になし。

(2) 住之江工場における災害に強いまちづくりへの寄与について

○浸水した際に、ごみピット内に水が流入すると思うが、水に濡れたごみの焼却はできるのか。また、水が引く際に外部へごみ流出することはないのか。
→住之江工場のごみピットにごみを投入する部分（プラットホーム）は、工場建屋の4階部分にあり、ごみピットはコンクリート製であるため、外部から水が入って来る心配はないと考えている。また、浸水等の被害にあった後のごみは、ごみピット内で養生をして乾燥させる、または、なるべく乾いたごみと攪拌して燃やすなどで対応可能と考えている。

○災害時の対応を記載しているが、環境施設組合は大阪市・八尾市・松原市の共同事業で、大阪市から切り離されている。大阪市民しかメリットを享受できないことへの整備について、従前の予算措置と違うところがあるのではないか。大阪市から環境施設組合になっているので、予算や協力体制を見直す必要があるのではないか。

→住之江工場の建設費用についても、大阪市・八尾市・松原市の3市が、工場完成後の平成36年度におけるごみ量案分でそれぞれ負担することを検討している。「災害に強いまちづくりへの寄与」については、その地域の地域防災にどのように協力していくかという視点で考えており、大阪市から環境施設組合に組織が変更されたということで、その地域における存在や果たすべき役割に変更はないと考えている。

○今回のプラントはDBO事業であるので、民間事業者が入って来るが、民間事業者は、経済的、合理的な許容範囲で防災も考える。直接のごみ処理費用プラス α 分の費用負担を誰がするのかということになる。ごみ量案分することで基本的には良いが、従前の大阪市の立場と違うので、DBO事業であることや3市の共同事業であることを意識した方が、問題が起きないのではないか。

第4回委員会における主な意見等

- 焼却工場の建設についても、建設竣工年度を見据えて、その計画処理量で案分して費用を負担することで理解をいただいている。それぞれの工場で順次建替えを実施する予定で、例えば、八尾工場を整備する際には、その地域に応じた災害対策を考慮して、設備的な用意をしていくことになる。備蓄倉庫をスペースとしてお貸しする場合には、非常用食料等の備蓄は、大阪市の問題として用意していただき、当方では、スペースを確保するなどの費用分担をしていく。3市に対する費用と、その地域住民への費用については、少し整理をしながら考えていきたいと思っている。
- 新しい体制になっているので、今後整理をして、大阪市だけでなく、八尾市、松原市の市民も含めて誤解のないようにしていただきたい。
- 今回は現在の建物を利用して更新する計画であるが、メーカーから耐震対策が難しいとの話はあったか。
- どのような耐震対策が必要になるのかなどが判らないので、次年度構造計算等も含めて検討しようと考えている。現在の建物は、新耐震基準で建設された建物ではあるが、最新のプラントを設置すると部分的に荷重が増える場所もある。民間事業者の知恵もお借りして、軽量化や効率的にできる部分もあると思う。次年度構造計算をしてみないとわからないこともあるので、業務委託を実施して詳細な検討を進める中で、改めて委員会でのご審議をお願いしたいと考えている。
- 薬品・用水の備蓄で、水の備蓄が大丈夫かとおっしゃっていましたが、それについてはよろしいですか。
- 水を使う分だけ用意するのは不可能である。川の水をくみ上げて使う話は、災害時に通常と同じような運転をすること自体に無理がある。かなり費用がかかるので、そこで肩を張らない方が良くかなと、今くらいのトーンが良いと思う。
- ごみ処理プラントを動かすために大量に水を備蓄するのは現実的ではないということか。
- はい、現実的ではありません。普段から使うわけではないので、大量のごみを新たに処理しなければならないようになった時は、処理設備を設置すれば良いと思う。
- 用水の確保については、これから住之江工場の設備を検討していく中で、可能な範囲内で確保に努めていきたいと考えている。

第4回委員会における主な意見等

(3) 住之江工場の見学者対応設備計画について

○焼却炉を直接見られる住之江工場の特徴を生かして欲しい。見学者設備の基本的なスタンスとしては、ごみの処理のことは見学し、学習してもらうのが基本である。現在の説明パネルは、ごみ処理の流れや処理システムが全体的に俯瞰できて、判りやすい。多くの人に対して見えないなどの課題は、最新の映像装置等で対応すれば良い。また、ごみ処理の歴史の展示も他には見受けられないので、残していただきたい。市民の方々がごみ焼却工場にマイナスイメージをもたれるのは、自分たちが出したごみがどのように処理されているのかや、ごみ焼却工場の必要性を理解していないことが原因である。ごみ処理の必要性や、最新のごみ処理技術で、マイナスイメージを持たれているダイオキシン類なども、煙突から出る時には、確実に処理されているところを学習して欲しい。それにプラスとして最近のごみ焼却工場では、ごみ処理で出てくる熱などを有効に使い、発電もできて省エネルギーに寄与することも説明すれば良い。最近の見学者説明装置は、地球温暖化やエネルギー問題ばかりが強調されているので、ごみの処理に関する啓発を第一として計画していただきたい。

○住之江工場は、大阪市のごみ焼却工場の中では交通の便が良く、この地域には、生活衛生を維持するための焼却施設として木津川工場が設置されていた歴史もあり、全国でも一番進んだ地域であった。ごみ博物館的なものまで本当は考えたいが、すぐに大きなものができるとは思わないので、そのようなものができれば良い。

→ごみの歴史やごみ処理技術の博物館を設置することは、大変意義深いことだと思うが、住之江工場は建屋を利用して更新を行う計画であり、建物の制約があることや、立地上の条件から、難しいものと考えている。

○今後の技術に関する動向のアンケートで、発電量を平準化するために、バッテリーの設置を考えているとの記載があった。大規模バッテリーは火災の危険性もあるので、設備に取付けることは難しいと思うが、教育的なところで考えてはどうか。

→バッテリーの利用については、大容量にも対応できるNaS電池について調べたが、火災の可能性があり、消防法で屋外に設置することが定められていること。また、大規模な設備で、金額的にも高額になることなどから、電力安定化への対応については、当方で設置を検討している非常用発電機の常用化で対応できないか検討している。

第4回委員会における主な意見等

- DBO事業であるが、見学者対応は、環境施設組合の職員が行うのか、民間事業者に委託することになるのか。
- 民間に委託して運転は行うが、ごみの搬入物検査など、行政が指導しなければいけない仕事は、環境施設組合の職員が行う必要がある。見学者への対応については、民間に任せるか、当方で実施するか、来年度にかけて検討していく。
- 外国人への見学対応のほかに、防災拠点としての位置付けもあるが、日本語以外の言語対応はどのように考えているのか。基本的には、経済的かつ合理的な範囲でコストの削減が必要であるが、一方では、必要なものは準備しなければならない。
- 東淀工場では、見学者用説明個所のタイトル部分は、日本語・英語・中国語・韓国語の4か国語で表記している。見学者説明用の音声ガイダンスは、日本語・英語の2ヶ国語対応となっている。住之江工場も東淀工場と同等とする予定で、津波避難ビルのマークも4か国語の表記がされている。災害発生時における対応も考慮して、必要な部分には外国人向けの表記を検討していく。
- 見学者の実績をみると、主な見学対象は小学生になってしまうし、どの小学生にも同じレベルのものを見てもらいたい思いはあるが、環境問題を勉強している大学生を見学に連れて行ける所がない。小学生と同じものを大学生に見せても仕方がないので、博物館構想は良いと思う。多くの焼却工場を管理しているので、工場ごとに見学の対象者を変えて大人を対象とする工場を造っても良いのではないか。
- 住之江工場は見学者の方が実物を近くで見ることができる特徴もあり、大学生や専門家にも喜んでいただけるような見学者設備にしていくように検討していく。
- 工場で役割分担をして特徴を出すのは賛成である。住之江工場を見学しているのはほとんど小学生であり、外国人が来たりするような位置づけではないと思うので、そこまで頑張る手を広げなくても良いと思う。設備の更新に費用が掛かるのは問題であり、最初は良くてもその後10年経つと更新もできなくなる。ソフト・機材関係・バッテリーもメンテナンスコストが掛かるので、初期コストだけでなく、更新も考えた設備・展示内容にしていきたい。